

# 東京医師アカデミー クリニカルフェロー

## 新生児コース 募集要項

1)応募資格	平成31年4月時点で5年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 ① 日本小児科学会小児科専門医を取得済みの方 ② 日本周産期新生児医学会新生児専門医を取得済みか取得予定の方
2)募集人員	1名程度
3)所属先	東京都立大塚病院 新生児科
4)研修期間	3年間
5)選考日	平成31年1月30日(水曜日)(予定)
6)選考会場	応募者に直接連絡いたします。
7)選考方法	個別面接(20分程度)、口頭試問(20分程度)
8)合否連絡	選考後3週間以内に合否をご本人にご連絡いたします(合格通知後1週間以内に誓約書の提出をお願いいたします)。
9)応募方法 提出書類	以下のものを申込期限までに下記11)の申込先に郵送すること ① 応募用紙兼履歴書 ② 医師免許証の写し ③ 認定医・専門医等の資格証明書の写し ④ 推薦状2通 ※提出いただいた書類はご返却できませんので予めご了承ください。
10)申込期限	平成30年12月21日(金曜日)必着
11)申込先及び 問合せ先	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎24階中央 病院経営本部経営企画部職員課医師アカデミー担当 (電話)03-5320-5861
12)コース内容 に関する 問合せ先	増永 健 (東京都立大塚病院 新生児科部長) (電話)03-3941-3211(代表)
13)備考	選考日当日は、医師免許証の原本を持参すること。

# 新生児コース

主たる研修病院 (所属病院)	東京都立 大塚病院	
連携して研修する病院・施設(予定)	東京都立小児総合医療センター、東京都立墨東病院、国立成育医療研究センター等の予定	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	平成31年4月時点で5年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 ① 日本小児科学会小児科専門医を取得済みの方 ② 日本周産期新生児医学会新生児専門医を取得済みか取得予定の方	
コース 責任者	氏名(所属)	増永 健 (東京都立大塚病院 新生児科)
	資格名	日本小児科学会小児科専門医・指導医、日本周産期新生児医学会新生児専門医・指導医、日本新生児成育医学会評議員、臨床研修指導医、医学博士、ICD制度協議会ICD(インフェクションコントロール)クター
	専門分野	新生児未熟児医療、超早産児の管理
臨床指導体制	研修開始後数か月は上席医とペアで診療にあたり、新生児医療の基本を身につける。その後は主治医となるが、常に上席医に相談しやすい環境が維持されており、週に2回の新生児科カンファレンス、毎日の夕回診時にも相談できる。研修開始数か月後から当直業務に就くが、当直の際にもバックアップ医師が必ず指定されている。当科には日本周産期新生児医学会新生児専門医が5名在籍しており、指導体制は万全である。学会参加や学会発表も奨励しており、学会発表時の指導体制、原著論文作成時の指導体制も整っている。	
臨床 研究	これまで 行ってきた 研究と実績	(東京都特別研究) 新生児における感染症マーカーとしての血中プレセプシンの有用性について (東京都プロジェクト研究) 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の実態調査 (大塚病院臨床研究) 極低出生体重児の頭部MRIを使用した脳容積の検討 極低出生体重児における血中乳酸値の検討 在胎22、23週児の臨床的検討 ハイリスク妊婦への産前訪問の検討 社会的ハイリスク母体とその出生児の検討 Late preterm児の検討 等
	今後行う 研究と 研究体制	新生児血液浄化療法の導入 超早産児における後天性サイトメガロウイルス感染症の予防と管理法の確立 超早産児の予後改善のための取り組み 早産児の呼吸管理法の改善 社会的ハイリスク母体とその出生児の管理
研修項目	研修期間は3年間で都立大塚病院に所属する。3年間のうち1年目は基礎的な新生児医療を確かなものにする。2年目は新生児医療の中で特に興味を持った分野に関して連携する他施設等で研修し、所属施設での研修が不十分な点について補完し、他施設の高度先進医療を習得をする。3年目は、都立大塚病院において経験症例数を増やすとともに、ジュニアレジデントやシニアレジデントの教育・指導、追跡外来の担当、臨床研究のまとめなどを行う。また新生児専門医未取得者は試験に向けての準備を行う。 ①指導医の指導の下に多数の症例経験を蓄積する。 ②新生児科内だけでなく他科の医師や多職種と良好なコミュニケーションを取りチーム医療を実践できる。 ③病児家族との良好な関係を築く。 ④臨床経験からの疑問点について臨床研究を立案し実践する。 ⑤レジデント医師や学生、看護師の指導を行う。 ⑥業績目標として、3年間に査読のある学会誌への論文発表を最低1篇および学会発表を最低2回は行う。	
研修内容・達成目標	研修症例数の最低ライン 1) ハイリスク分娩の立会い 20例以上 2) 健常新生児管理例数 50例以上 3) 超低出生体重児受け持ち数 10例以上 4) 極低出生体重児受け持ち数 20例以上 5) 中枢神経疾患(新生児痙攣など) 5例以上 6) 重症感染症(敗血症、髄膜炎など) 3例以上 7) 循環器疾患(PDA単独をのぞく) 5例以上 8) 新生児黄疸の管理 5例以上 9) 血液凝固異常(新生児DICなど) 3例以上 10) 先天異常(染色体異常など) 3例以上 11) 小児外科疾患 5例以上 研修手技の最低ライン 1) 超音波を用いた診断技術 20例以上 2) 気管内挿管 20例以上 3) 呼吸管理症例(経鼻持続陽圧呼吸葉のぞく) 20例以上 4) 交換輸血 2例以上 5) 3) 胸腔穿刺 2例以上 経験症例数の最低ライン 1) 剖検数 2例以上 2) 極低出生体重児のフォローアップ 3例以上 3) ハイリスク新生児の施設間搬送数 20例以上	
コース内容に関する 問合せ先	増永 健 (東京都立大塚病院 新生児科部長 ) TEL:03-3941-3211(代表) ken_masunaga@tmhp.jp	